

芝生化園庭における幼児の遊び空間に関する研究

学籍番号：4110071

氏名：守屋 沙織

1. 研究のきっかけ

母園の幼稚園に実習に行った際に、園庭の一部や遊具の周りに芝生が植えられていることに気が付いた。私のこれまでの概念では、園庭といえば土であり、全面的に芝生化した幼稚園があるということに驚きを感じた。

園庭のすべてを芝生に変えたということは、芝生の方が土の園庭よりも何らかのメリットがあると判断したものと考えられる。また、園庭の一部や遊具の周りだけを芝生化している園など、幼稚園によって芝生化の程度が異なっていることは、芝生化を行うにあたって、何らかの意図があるからではないかと考えた。そこで、園庭の芝生化のメリットは何なのか、また、芝生の園庭は幼児の成長にどんな影響をもたらすのかについて調査しようと考えた。

2. 研究の目的

先行研究では、芝生化された園庭では土の園庭よりも幼児の自由遊びが多様化していることが報告されている。その理由として、怪我をすることや衣服が汚れることを気にしないでアクティブに遊ぶことができると考察されている。

本研究では、一つの園庭に芝生と土の両方が同時に存在するときに、幼児の自由遊びに違いがみられるかどうかを比較し、園庭の芝生化により本当に遊びが多様化するのかを明らかにする。また、幼児の遊びを多様化する環境として必要とされる要因は何かを再検討することを目的とする。

本研究の目的

- 1 園庭内の芝生と土の部分における遊びの比較
- 2 芝生化による遊びの多様化の検証
- 3 遊びを多様化する要因の検討

3.調査の方法

1) 調査対象園の芝生の実態調査

植栽から1年目の芝生化園庭の様子を1年間定点調査した。

2) 芝生と土の上での遊びの観察調査

幼児の自由遊びの時間の園庭での遊びの様子をインターバルレコーダー(recolo)を用いて観察調査した。また、幼児の遊びの様子を5分毎に写真(配置図に園児の位置、遊びの内容)に撮り、遊びの内容に変化がある場合はその都度メモに記録した。

4.結果および考察

今回の研究を通して、ただ園庭を芝生化するだけでは幼児の遊びの多様化につながるとは言えないことが分かった。幼児のアクティブな身体活動など積極的な芝生との関わりのためには、芝生がある程度成長しているハード面での整備や保育者による幼児と芝生との関わりを増やすきっかけ作りなどのソフト面が大切であることが明らかになった。

先行研究では園庭の芝生化によって遊びの多様化がみられたという結果から、園庭の芝生化が遊びを多様化するにいたるまでには条件が必要であると考えられる。先行研究と本研究を比較して考えられる条件として、以下3点が挙げられる。

園庭の芝生化により遊びの多様化に求められる条件

- ① 芝生がある程度成長している。
- ② 保育者による遊びの設定が行われている。
- ③ 幼児が芝生に慣れ親しんでいる。

本研究をきっかけに今後も継続的に研究を続けていくことで、幼児の遊びの幅を広げ、積極的な活動ができるような保育を展開していきたい。

(指導教員 福井 広和)